

診療科  
血液内科

疾患名  
再発・難治性多発性骨髄腫

レジメ名  
DCd療法(7サイクル以降)

投与間隔  
1コース 4週間 計 PDまで

| 商品名     | 一般名      | 略号  | 投与量                      | 投与方法      | 投与時間  | 投与日  |      |      |      |       |       |       |  |
|---------|----------|-----|--------------------------|-----------|-------|------|------|------|------|-------|-------|-------|--|
|         |          |     |                          |           |       | day1 | day2 | day8 | day9 | day15 | day16 | day22 |  |
| ダラザレックス | ダラツムマブ   |     | 16mg/kg/day              | div       | 備考参照  | ●    |      |      |      |       |       |       |  |
| カイプロリス  | カルフィルゾミブ |     | 56mg/m <sup>2</sup> /day | div       | 30min | ●    | ●    | ●    | ●    | ●     | ●     |       |  |
| デカドロン   | デキサメタゾン  | DEX | 20mg/body/day            | div       | 15分   | ●    | ●    | ●    | ●    | ●     | ●     |       |  |
| デカドロン   | デキサメタゾン  | DEX | 40mg/body/day            | div or po | 15分   |      |      |      |      |       |       | ●     |  |

備 考

- ・75歳超例ではday2のDEX省略, day8,9,15,26,22のDEXそれぞれ12mg, 8mg, 12mg, 8mg, 20mgに減量。
- ・カイプロリスは軽度～中等度慢性肝機能障害(28日間開けた2回の測定でTB 1xULN～3xULN or GOT又はGPT増加)で25%減量。その後も毒性に応じ45,36,27,30mg/m<sup>2</sup>, 投与中止に調節。
- ・本剤投与の1～3時間前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤、副腎皮質ステロイド、ロイコトリエン阻害剤を前投薬する。具体的には1時間前までにコロナール1,000mg, モンテルカスト10mgを内服し、デカドロン + ポララミン 5mgのdivを終了する(15分間で投薬後、1時間生食100mLのみとしその後カイプロリスまたはダラザレックス)。
- ・気管支喘息や、呼吸機能検査でFEV1.0<80%のCOPD例では、2日間はポララミンなど抗ヒスタミン剤内服、短時間作用型β 2アドレナリン受容体作用薬の吸入および、原疾患の治療が考慮される。
- ・ダラザレックス 1,2回目は生食で総量500mLに希釈し、50mL/時で開始。1時間毎に50mL/時ずつ投与速度増量可(200mL/時まで)。
- ・ダラザレックス初回投与時3時間以内にinfusion reactionを認めなかった場合、3回目は生食で総量500mLに希釈し、50mL/時で開始可能。1時間毎に50mL/時ずつ投与速度増量可(200mL/時まで)。初回投与時3時間以内にinfusion reactionを認めた場合、3回目は1,2回目同様分割投与とするか、16mg/kgで希釈総量を1,000mLとして投与する。投与速度は1,2回目同様。
- ・ダラザレックス1-3回目投与時に最終速度が100mL/時以上でinfusion reactionを認めなかった場合、4回目は100mL/時で開始可能。1時間毎に50mL/時ずつ投与速度増量可(200mL/時まで)。
- ・infusion reaction発現時、grade 1-3では投与中断、grade 4は投与中止(アナフィラキシーの場合も投与中止を検討)。中断後infusion reactionから回復すれば、発現時の半分以下の投与速度で再開し、再度50mL/時ずつ増量可(200mL/時まで)。ただしgrade 2以上の喉頭浮腫、気管支痙攣例は改善に回復することを再投与の条件とする。grade 3のinfusion reactionが3回発現した際には投与中止。
- ・ダラザレックス投与24時間後以降に発現する遅発性infusion reactionを軽減させるため、必要に応じてレナデックス20mgの内服追加を検討する。  
ただしダラザレックス投与翌日にもともとDEX投与予定の場合は追加不要。

登録年月日

登録No.  
No. 464-4